

三重大学招へい教授  
石田 正昭

地域からの農業再興

菟谷栄一・著

コミュニティ農業が著者の持論。コミュニティには地域を同じくするローカル・コミュニティと目的を同じくするテラ・コミュニティとがあるが、この二つの方によって支えられた農業のことをいふ。それは同時に、人と人の関係性によりどころを求めネットワイク農業でもある。本書は、そのコミュニティ農業の意義と可能性を、豊富な事例によって検証している。

もう一つの論点は、日本・台湾・韓国、さらには中国も含めて、東アジア諸国は食料自給率に問題がある。水田の有効利用が大きな課題であるが、水田農業の社会的価値を積極的に評価することにより、新たな進路を見いだしたい。置かれた状況や時間差から、その先進国である日本が模範を示す時だと主張する。

以上から分かるように、本書はコミュニティ農業

農業ルネサンスを提唱

論と先見性あふれる日本農業論の二面性があり、全体として「農業ルネサンスを提唱している。

IT化や高度技術の導入、農商工連携など論点は広いが、キーワードは、コミュニティに新しい風を吹き込むこと、具体的に女性や異業種の人たち、さらには異業種経験者たちの力を借ることで、読者は読み取った。

農業ルネサンスへのJAの果たすべき役割も大きい。JA加美よつば(宮城)・JA三次(広島)を事例に、コミュニティ農業を中心に置いた地域農業のデザインづくりと「組合員を主役としての協同活動の活性化」が重要と指摘している。

農業は、もともと社会(コミュニティ)と経済(ビジネス)の重複領域に位置している。経済だけを強調する現在の風潮、論調に警鐘を鳴らす。



- ◇出版=創森社
- ◇価格=1680円
- ◇副題=コミュニティ農業の実例をもとに